

# グリーン四国

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30

TEL 088-821-2052

FAX 088-821-4834

ホームページアドレス <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>

電子メール [shikoku\\_soumu@rinya.maff.go.jp](mailto:shikoku_soumu@rinya.maff.go.jp)



四国山の日

No.1133 2014年8月号

## 民国連携したニホンジカ食害被害への取組

森林技術・支援センターでは、民有林支援の一環として、民国が連携してニホンジカ食害の軽減を図ることを目的に、高知県四万十町及び愛媛県四国中央市において、民有林関係者等を対象に、センターで開発した「小型囲いわな改良型」の現地講習を行いました。【詳細は2頁】

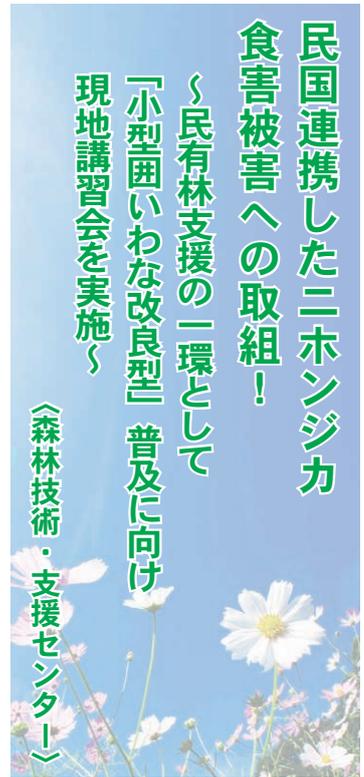


「小型囲いわな改良型」の組み立ての様子  
【四国中央地区林業研究グループ】

## 民国連携したニホンジカ 食害被害への取組！

〈民有林支援の一環として  
「小型囲いわな改良型」普及に向け  
現地講習会を実施〉

〈森林技術・支援センター〉



当センターでは、民有林（以下シカ）の駆除と小型支援の一環として、民国が 囲いわな改良型の設置方法を連携してシカ食害の軽減を図ることを目的に、高知県

四万十町及び愛媛県四国中央市において、民有林関係者等を対象に、センターで開発した「小型囲いわな改良型」の現地講習を行いました。

七月二四日、四万十町折合・桧生原地区において、県、町、農協、森林組合のご協力のもと住民の方々に集まって頂き、ニホンジカ

での効果的な捕獲に向け、今後とも十分意思疎通を図りながら取組みを進めてまいります。

また、当日の様子については、地元ケーブルテレビの『四万十公社』が、猛暑のなか熱心に取材し、町内に向けて放映してくれました。



四万十町の住民の方々に説明

## 小型囲いわな設置現地検討会（四万十町）



七月二九日～三〇日、愛媛県四国中央市役所三島施設林業研修センターで開催された、「平成二六年度四国中央地区林業研究グループ研修会」に、当センターが招かれました。

初日は、四国中央市長及び林研グループの代表である宇摩森林組合長の挨拶の

あと、「低コスト造林への取組みについて」と題し、センター所長が四〇分にあたって研修講師を務め、

①循環型社会に向け必要な再造林

②諸外国に比べ非常に高い造林コスト、中でも地拵り下刈コストのウエイトが高いこと

③「低コスト造林」に向けた全国の研究動向

④コンテナ苗の普及

⑤当センターで取組んでいるシカ食害対策（小型囲いわなの開発・普及、シカ食害防止クリップの検証）

⑥エリートツリーによる下刈省力化試験

等について、説明を行いました。

当地域は、香川県・徳島県・高知県の三県に接し、銅山川流域を中心に古くから林業が盛んな土地柄で、東側（徳島、高知方面）の山を越えて大量に侵入したシカによる食害被害が深刻化しており、シカ食害対策には大変関心が高く、会場に集まった約三〇名の林業者の方々も熱心に聴講していました。

二日目は、現地研修会を実施しました。四国中央市富郷中尾地区及び落合地区にある住友林業（株）の社有林（再造林に取組んでいる）の皆伐箇所（スギ・ヒノキ八〇年生）を視察しました。

その後、当センターの「小型囲いわな改良型」の

設置方法等について、県、市関係者、森林組合、住友林業等に対して説明しました。

近年、住友林業社有林でもシカ食害被害は深刻になって来ており、会社では社員自ら狩猟免許を取得するなど積極的な駆除に努めているとのことでした。当センターが開発した小型囲いわな改良型について、非常に関心が高く林研グループの方々共々、説明後、実際に組立てを行い、改良工夫点等について熱心な意見交換が行われ、住友林業においても当センターの小型囲いわな改良型を採用して頂くことになり、当センターとしても大変有意義な研修会になりました。

低コスト造林への取組についての説明



小型囲いわなに興味津々（林業研究グループ）

七月二三日、高知県吾川郡いの町において、平成二六年度第一回国有林モニター勉強会を開催しました。当日は、好天にも恵まれ、四国四県から国有林モニター一六名が参加されました。

**国有林モニター勉強会を開催**

〈企画調整課〉

開会にあたり浅川局長から四国の国有林の特徴等を説明し、「実際に治山事業現場や森林の状況を見ていただき、国有林や森林についての理解が深まる勉強会になれば幸いです。」との挨拶がありました。参加者



開会（局長挨拶）

瓶ヶ森自然休養林



最初の視察地は、治山事業実施箇所において、国が直轄事業で行った地すべり対策工事について、施設の概要や必要性、公共土木工事における木材利用の取組等の説明を行い、アンカー工や集水井の状況を見学しました。

参加したモニターの方々は、各視察箇所や移動中の説明も大変熱心に聞き入っておられ、治山事業やニホンジカの食害について等、活発に質問や意見を述べられて、理解を深められました。

国有林モニター勉強会参加者の皆様



**各地のたより**  
**教職員の方々を対象に森林環境教育研修会を開催**  
 〈ふれあい推進センター〉

ふれあい推進センターでは、平成一九年度から教職員を対象にした研修会「森林環境教育サポート講座」を、高知県と愛媛県で開催し、七年間で約一六〇名が受講されました。ここ数年は募集しても受講者が定員に達せず、各学校に直接出向いて参加要請を行うなどの対応をしていましたが、この講座に関心のある先生方のほとんどが受講されているため、今後の実施のあ

**ふれあい推進センターの主な活動等の説明**



り方等を検討してまいりました。このような中、愛媛県の北宇和郡環境教育主任委員長から森林環境教育の実施要請があり、これまでの「サポート講座」に代わり、今年度は、研修会として、

七月二十九日に愛媛県鬼北町総合福祉センターで、北宇和郡内の小学校の環境教育主任等八名の先生方の参加により実施しました。

はじめに、当センターの主な活動、森林環境教育の重要性と森林の機能について説明した後、当センターが教科書補完プログラムとして作成した、空飛ぶ種子、木工クラフトの二種類のプログラムを実施しました。

「空飛ぶ種子」では、植物が風や動物を利用するなど、様々な方法で種子を散布することを紹介し、アルソミトラやマツ、ニワウルシ等の模型を自分たちで作し、部屋で飛ばしたり、ラワンの模型は屋外に出て